「富田林市生活支援等サービス体制整備協議体」
～出し合おう、地域の魅力や特色、困りごとや課題～

報告書

もくじ

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P1
第1圏域・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P2
第2圏域・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P6
第3圏域・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P10
成果及び今後の活用にむけて・・・・ P14

令和７年3月発行　富田林市　高齢介護課

はじめに

平成27年の介護保険法改正により、「市町村は地域支援事業として、被保険者の地域における自立した日常生活の支援及び要介護状態等となることの予防又は要介護状態等の軽減若しくは悪化の防止に係る体制の整備その他のこれらを推進する事業を行うこと」が規定されました。その中で生活支援・介護予防サービスの提供主体等が参画し、情報共有及び連携強化の場として「協議体」の設置が求められました。
これを受け、本市では、平成28年度より、地域の実情に応じた高齢者の生活支援体制の整備について協議を行う場として、「富田林市生活支援等サービス体制整備協議体」を設置しています。協議体は、多様な主体間の情報共有及び連携・協働による体制整備を推進することを目的としています。

協議体では、表1のように地域住民や専門職、学識者、市の様々な役割を担う担当課が集まり、その時々のテーマに応じた意見交換や地域の実情や課題、施策の情報を共有してきました。
令和5年度からは、市内3圏域を1圏域ごとに取り上げ、それぞれの圏域での暮らしに焦点を当て地域の実情を話し合ってきました。
本報告書では、3圏域の特徴や課題を様々な協議体参加者の立場から発言、共有したことをまとめ、今後の高齢者のかかえる生活課題の解決に向けて検討するための資料とします。
（表1）

年度	主なテーマ	内容
平成29年度	地域の活動への関り報告、地域基礎情報シート、介護予防への本市の取り組み	協議体開催における意見交換 生活支援コーディネーターからの報告
平成30年度	地域の活動報告、協議体に関連する各機関の取り組み	各地域の取り組みの発表及び意見交換 生活支援コーディネーターからの報告
令和元年度	介護予防・自立支援5ケ年計画」と協議体の取り組み・連携について	協議体の役割、地域課題の共有及び連携連動、課題の抽出、政策形成について
令和2年度	介護予防自立支援5ヶ年計画「地域分野」の進捗状況	コロナにおける活動自粛が与える影響、および今後の取り組みについての意見交換。
令和3年度	介護予防自立支援5ヶ年計画「地域分野」の進捗状況	各機関の取り組み状況について意見交換 （コロナによる書面開催あり）
令和4年度	高齢者の食料品アクセス、食べる事	「食料品アクセス」「孤食」「保健・医療」に分けて議論及び情報交換
令和５、６年度	地域の魅力や課題、活用できる資源や取組の共有（第1～3圏域）	ワークショップ形式による意見交換

令和5，6年度の協議体について

テーマ：～出し合おう、地域の魅力や特色、困りごとや課題～
開催日：第1圏域　協議体開催日　令和5年9月29日
　　第2圏域　協議体開催日　令和6年2月1日
　　第3圏域　協議体開催日　令和6年8月5日
内容：ワークショップ形式にて、地域の良いところ、特色や自慢できること、よく聞く困りごとや課題を出し合い、気づきやあったらいいなと思う事、今後できそうなことやマッチングできそうな人・団体について意見交換を実施。

第1圏域

【概要】

中学校区としては第一中学校区、喜志中学校区で構成され、小学校区としては喜志小学校区、喜志西小学校区、新堂小学校区、富田林小学校区で構成されます。

北西部の大規模開発と東部地域の旧集落、南東部の公営集合住宅、官庁街周辺の市街化地域と多層的な形態となっています。市役所、保健所、警察署、南河内府民センター、多文化共生・人権プラザなどの公的機関が集中する地域となっています。

地域包括支援センター（ほんわかセンター）は直営で市役所内に配置しており、総合相談窓口としての機能を持つとともに、3つの圏域を統括する基幹型の役割を担っています。また、地域包括支援センター（ほんわかセンター）のブランチ機能を持った在宅介護支援センターを2か所設置しています。

第1圏域の令和6年（2024年）3月末日の高齢化率は 30.1%と、市全体の平均を下回っています。

	人口（人）	高齢者人口（人）	高齢化率（%）
喜志中学校区	18,494	5,592	30.2
喜志西小学校	5,042	1,800	35.7
平町一、二丁目	582	162	27.8
宮町三丁目	395	175	44.3
大字喜志	149	21	14.1
梅の里一,四丁目	1,558	519	33.3
梅の里二丁目	873	373	42.7
梅の里三丁目	1,485	550	37.0
喜志小学校	8,364	2,213	26.5
喜志町	3,123	668	21.4
喜志新家町	365	140	38.4
木戸山町	668	164	24.6
宮町一、二丁目	494	210	42.5
旭ケ丘町	428	117	27.3
南旭ケ丘町	304	1012	30.0
桜井町	1418	340	24.0
川面町	812	210	25.9
通法寺町、西条町	44	19	43.2

	人口（人）	高齢者人口（人）	高齢化率（%）
第一中学校区	13,406	4,013	29.9
新堂	10,048	3,231	32.2
清水町	1913	787	41.1
若松町	3899	1224	31.4
若松町東	230	41	17.8
若松町西	1276	339	26.6
緑ケ丘町	476	187	39.3
中野町	1,765	471	26.7
中野町東	16	6	37.5
中野町西	36	16	44.4
大字新堂・大字中野	437	160	36.6
富田林	8,446	2,361	28.0
富田林町	1,080	368	34.1
本町	702	227	32.3
常盤町	518	148	28.6
寿町	3,533	837	23.7
昭和町	934	244	26.1
富美ヶ丘町	653	259	39.7
谷川町	275	69	25.1
甲田１丁目	751	219	29.2
第1圏域	31,900	9,605	30.1
市全体	106,580	33,813	31.7

第1圏域　課題、よく聞く困りごと

今後できそうなことマッチングできそうな人・団体		
芸大など学生による有償ボランティア	地域ごとでの助け合い	駅
あるこっと×拠点づくり	あすマイル×あるこっと	企業自動販売機×あるこっと
QR コード×あるこっと	I♡新堂校区×あるこっと	健診ポイント×？？？
高架下×コミュニティ(スケボー)	富田林病院・PL 病院×レインボーバス	あるこうかい富田林×社会参加
レインボーホール×神社	芸大生×企画×自治会(まちづくり)	子ども食堂とボランティア(高齢者の活躍の場)

魅力、良いところ

集いの場が充実、
公園が多い
喜志中学校
17
17
石　川
喜志小学校でイベントや子
ども食堂、ラジオ体操など
活動が活発
喜志駅
市民会館
東公民館
飲食店が
多い
隣接する町へのア
クセスが良い
飲食店、スーパー、医療
機関が充実
子ども食堂が多い
公共施設が比較的近い
富田林駅
中央公民館
公共施設が近く、多い
商業施設・医療機関が充実
歴史ある町並み
第一中学校
富田林西口駅
市役所
警察署

【地域の分析及び課題と考えること】

第1圏域のワークショップで出た意見は、主に移動と地域とのつながりに関する内容が多かった。第1圏域には 17 の地区があり、旧市街と昭和から平成に開発された新興住宅地が入り混じる地域である。近鉄長野線富田林駅～富田林西口駅周辺の旧市街は、官公庁やスーパーが近くにあり、平坦な土地が多いため、アクセス性が高いという意見が多く見られた。一方で外環状線（170 号線）より西側の地区は、山を造成して建設されたことから坂道が多く、駅からも遠い（例：梅の里、南旭ヶ丘、富美ケ丘周辺）。これらの地域は、高度経済成長期に宅地開発され 50 年近くが経過した結果、高齢化が進んでいる。特に車の免許を返納すると、買い物や通院といった日常生活での移動が困難になる住民が多い状況にある。

地域社会とのつながりに目を向けると、旧市街地では古くから存在するコミュニティに新規の住民は加わりにくいという意見や集会所など住民が集まる場所が不足している（例：寿町、平町、常盤町、若松町西）という意見もあった。高齢者の社会参加は、孤立を防ぎ、生きがいや健康づくりのために欠かせない要素である。住み慣れた地域で安心して生活を続けるためには、地域住民誰もが気軽に参加できる身近なコミュニティが必要であり、特に、新規住民も参加しやすい場の提供やコミュニティを支える担い手の育成・確保など、地域全体で支え合う体制づくりが求められている。

【課題に対しての提案】

課題	資源	提案
集いの場など活動拠点がない 既存のコミュニティに入りにくい	福祉委員会活動 シニアクラブ MINAYORU 商業施設（スーパー等） 笑顔はつらつ教室 各種出前講座（ぼっちら教室など）	拠点づくりのための取り組み
【分析】 住民の集まれる場が不足していることや参加が限定的であるという課題を受け、まずは、実際にその地区で住んでいる住民の声を聴く必要がある。そのうえで、住民の意向を聞き取りながら、MINAYORU など地域の空き教室を活用するなどして、住民同士が「顔見知りになる」、「楽しさや元気になれる」と感じられる活動を実施する。出前講座や笑顔はつらつ教室をはじめとする介護予防教室（無料）などのサービスを活用して、活動を継続することで、住民主体の活動の場が増え、孤立予防や見守りの環境づくりにつながることが期待される。		

課題	資源	提案
集いの場など活動拠点がない	子ども食堂	子ども食堂ボランティアに参加し、多世代の交流が増える。
【分析】 子ども食堂は現在、第１圏域に9カ所開催され、3圏域の中でも一番設置数が多い。子ども食堂は「子どもや保護者の安心や安全の場であること」や「高齢者や障がい者の地域の交流の場」でもある。調理や昔遊びの伝承など、ボランティア活動を通じて地域との交流を深め、仲間とともに食堂の運営継続の役割を担う。		

第2圏域

【概要】

中学校区としては第二中学校区、第三中学校区で構成され、小学校区としては川西小学校区、大伴小学校区、彼方小学校区、錦郡小学校区（校区の一部は第3圏域）、東条小学校区で構成されます。

自然環境に恵まれた農業生産地域で、古くからの集落と開発住宅地が混在し、6か所の府営住宅が整備されています。

地域包括支援センター（ほんわかセンター）は市立コミュニティセンター「かがりの郷」に配置し、運営を富田林市社会福祉協議会に委託しています。また、地域包括支援センター（ほんわかセンター）のブランチ機能を持った在宅介護支援センターを3か所設置しています。

第2圏域の令和6年（2024年）3月末日の高齢化率は 34.5%と、市全体の平均を上回っています。

	人口（人）	高齢者人口（人）	高齢化率(%)
第２中学校区	17,855	6,028	33.8
錦郡小学校	4,515	1,465	32.2
大字錦織	5	4	80.0
錦織東	736	242	32.0
錦織中	988	303	30.7
錦織南	2,221	692	31.2
錦織北	522	212	40.6
大字須賀	73	12	16.4
川西小学校区	6,824	1,869	27.4
錦ヶ丘町	628	230	36.6
甲田	3,767	984	26.1
宮甲田町	688	155	22.5
桜ヶ丘町	1,358	340	25.3
新家	149	357	41.7
大字廿山	26	7	26.9
彼方小学校区	6,516	2,694	41.3
彼方	590	249	42.2
伏見堂	504	204	40.5
横山	307	127	41.4
嬉	576	242	42.0
西板持	2,671	975	36.5
不動ヶ丘町	566	265	46.8
楠風台	1,302	632	48.5

	人口（人）	高齢者人口（人）	高齢化率(%)
第三中学校区	10,336	3,691	35.7
大伴小学校	7,745	2,592	33.5
山中田	1,651	460	27.9
南大伴	998	356	35.7
北大伴	753	244	32.4
別井	487	181	37.2
東板持	1,431	605	42.3
楠町	891	416	46.7
川向町	539	188	34.9
かがり台	995	142	14.3
東条小学校	2,591	1,099	42.4
甘南備	610	254	41.6
龍泉	364	161	44.2
佐備	913	376	41.2
山手町	704	308	43.8
第２圏域	28,191	9,719	34.5
市全体	106,580	33,813	31.7

第2圏域　課題、よく聞く困りごと

【全体】
バスが減便し、交通が不便。
車がないと生活しにくい
子どもの数が減り、空き家が増加

今後できそうなことマッチングできそうな人・団体		
日本語学校との連携強化(農業、企業団地、自治会・町会と連携)	ホタル観賞会など自然豊かなイベントを通じて他圏域との地域交流・連携	大阪大谷大学(社会福祉士)学生とボランティア活動
チョコザップ×散歩(健康増進)	サバーファーム跡地×ネスタリゾートのようなアスレチック施設(遊び場、災害時活用)	石川×バーベキュー・キャンプ施設(災害時の体制づくり、レジャー)
お寺×学生×イベント(学生の定着、多世代交流)	大学×農業(学生の定着)	学生×保育、教育、ボランティア(学生の活躍)
外国人×介護・福祉(外国人の活躍)	日常(生活者の視点)×非日常(観光、レジャー、外部からも)	無人の交通機関(万博の交通)の活用
農園での交流や就労の場	トライアル×地元農家	

魅力、良いところ

【全体】
自然が多い
地縁団体や、地域のつながりがしっかりしている。
秋祭り(だんじり)がある。

商業施設や飲食店が多い。
公共施設が多い
(すばるホール、福祉会館、プール)
レインボーバスが利用できる

コミュニティーセンター(かがりの郷)、
東公民館でのイベントがある

新鮮な野菜
果物狩り体験
商業施設が増えてきた。

幹線道路(R309)のアクセス良い

移動スーパー

錦織公園は自然が多く、
広い世代の利用あり
大阪大谷大学で学生との交流や
地域連携。
町会活動が盛ん
移動スーパーがある

有名な寺院や神社がある。
ウォーキング、ランニング、サイクリングがしやすい。
移動スーパーがある。
「かかしフェスティバル」の開催

自然が豊かでスポーツ公園など
観光スポットがある。
近所との声かけがある。
農業が盛ん

【地域の分析及び課題と考えること】

第2圏域は、自然豊かな地域が多く、昔ながらの繋がりが強い地域が多い。農業や畑を中心としたネットワークも強みのひとつで、コミュニティ形成の一助を担ってきた側面があり、秋祭りや寺院等の伝統的行事も定例的に行われている。課題としては、農村地域の過疎化の進行や公共交通の減少による交通手段への不安が増加しており、免許の返納後など生活が一変してしまう可能性が含まれている。

圏域内には、高度経済成長期に開発された住宅地や府営住宅も存在し、これらの住宅は開発から 30～40 年が経過したことにより、昔ながらの地域（いわゆる旧村）とも一定の調和が育まれ、地域形成の役割を担ってきた。一方で開発時期が同時期・同世代の世帯で構成されたので、集中的に高齢化率が高い傾向となる。

市街地に近い地域（川西校区）は、商業施設が多く、幹線道路や鉄道も整備されており市役所や警察等の公的機関も隣接していることから利便性が高い。また医療機関も充実しているため、生活しやすい環境が整っており、新しい住民の流入も見られ、圏域内で唯一高齢化率は20％台となっている。高齢者を含めたさまざまな地域住民が、安心して生活できるまちづくりを目指すため、住民同士の繋がりの醸成やさらなるネットワークの強化を図っていくことが望まれている。

【課題に対しての提案】

課題	資源	提案
公共交通の減少 高齢化による生活課題の深刻化 地域活動の担い手減少	自然や農業 公共施設の活用 地域内の繋がり	居場所づくり 活躍の場の創出 人材発掘
【分析】 第2圏域の特徴や社会資源（自然や農地、店舗や公共施設）を活かし、個人のニーズに沿ったさまざまな情報提供を行うための情報集約や整理を検討。また気軽に誰でも通える居場所づくり（地域食堂等）やそこで活躍できる人材発掘（生き活きプロジェクト等）や活躍の場（様々なボランティア活動等）を提供できる機会を増やし、相互に支え合う環境づくりの推進を図る。		

第3圏域

【概要】

中学校区としては金剛中学校区、葛城中学校区、藤陽中学校区、明治池中学校区で構成され、小学校区としては向陽台小学校区、藤沢台小学校区、寺池台小学校区、高辺台小学校区、久野喜台小学校区、伏山台小学校区、小金台小学校区、錦郡小学校区（校区の一部は第2圏域）で構成されます。

昭和40年代から都市再生機構によって計画的に整備された金剛団地及び金剛東団地が大部分を占め、その西部から北部にかけての旧集落地を含んでいます。市ケアセンター（けあぱる）を拠点に、保健センター、富田林病院などがあります。

地域包括支援センター（ほんわかセンター）は市ケアセンター（けあぱる・けあぱる金剛）に配置し、運営を富田林市福祉公社に委託しています。また、地域包括支援センター（ほんわかセンター）のブランチ機能を持った在宅介護支援センターを3か所設置しています。

第3圏域の令和6年（2024年）3月末日の高齢化率は 30.6%と、市全体の平均を下回っています。

	人口(人)	高齢者人口(人)	高齢化率(%)
金剛中学校区	14,748	4,458	30.2
伏山台小学校	5,290	1,775	33.6
須賀一丁目	1,079	336	31.1
須賀二丁目	1,004	345	34.4
須賀三丁目	441	183	41.5
伏山一丁目	501	119	23.8
伏山二丁目	9	3	33.3
伏山三丁目	885	249	28.1
寺池台5丁目	1,371	540	39.4
寺池台小学校	9,458	2,683	28.4
廿山二丁目	718	144	20.1
寺池台一丁目	2,023	706	34.9
寺池台二丁目	1,119	328	29.3
寺池台三丁目	1,032	366	35.5
寺池台四丁目	2,152	875	40.7
金剛伏山台	1,206	239	19.8
金剛錦織台	1,208	25	2.1
藤陽中学校区	14,099	4,406	31.3
藤沢台小学校	8,657	2,924	33.8
藤沢台一丁目	1,878	709	37.8
藤沢台二丁目	1,083	375	34.6
藤沢台三丁目	590	203	34.4
藤沢台四丁目	554	111	20.0
藤沢台五丁目	443	131	29.6
藤沢台六丁目	1,119	356	31.8
藤沢台七丁目	853	219	25.7
津々山台一丁目	2,137	820	38.4
向陽台小学校	5,442	1,482	27.2
向陽台一丁目	373	169	45.3
向陽台二丁目	918	284	30.9
向陽台三丁目	2,001	738	36.9
向陽台四丁目	1,917	241	12.6
向陽台五丁目	233	50	21.5

	人口(人)	高齢者人口(人)	高齢化率(%)
葛城中学校区	12,205	4,042	33.1
久野喜台	7,429	2,282	30.7
新青葉丘町	366	131	35.8
五軒家一丁目	647	125	19.3
五軒家二丁目	410	150	36.6
青葉丘	751	218	29.0
久野喜台一丁目	949	264	27.8
久野喜台二丁目	2290	947	41.4
加太一丁目	590	157	26.6
加太二丁目	798	155	19.4
加太三丁目	628	135	21.5
高辺台	4,776	1,760	36.9
高辺台一丁目	1,159	418	36.1
高辺台二丁目	1,033	324	31.4
高辺台三丁目	2,584	1,018	39.4
明治池中学校区	6,739	1,717	25.5
小金台小学校	6,739	1,717	25.5
廿山一丁目	470	123	26.2
美山台	1,993	662	30.2
小金台一丁目	469	130	27.7
小金台二丁目	540	73	13.5
小金台三丁目	349	55	15.8
小金台四丁目	691	138	20.0
津々山台二丁目	628	115	18.3
津々山台三丁目丁	682	262	38.4
津々山台四丁目	577	114	19.8
津々山台五丁目丁	340	105	30.9
第３圏域	47,791	14,623	30.6
市全体	106,580	33,813	31.7

第3圏域　課題、よく聞く困りごと

【全体】
住民同士の付き合いが希薄な地域がある。
買い物先が限られる
巨大団地の抱える問題：老朽化、階段、粗大ごみを出せない高齢者、若い人や子どもが少ない、空き家、単身高齢者の貧困の増加
市内東部との連携がしにくい
202号線交通渋滞、自転車の交通量も多く危険。
坂が多い
マンション、団地の上下移動がしにくい。

今後できそうなことマッチングできそうな人・団体		
寺池台イベントの活動拠点ができる	無人運転バスの導入	ライドシェア（福祉有償輸送）
金剛地区マルシェの拡大（住宅兼店舗）	金剛駅周辺の課題は大阪狭山市近隣自治体との連携	小学校の開放（野菜マルシェの実施）で交流
買い物荷物を運んでくれる活動	歩いて楽しめるまちづくり（坂の上の魅力発信）	移動スーパー

魅力、良いところ

【全体】
医療機関が充実している
道路整備されているところが多く
車での移動が便利
公園など緑が整備されている
金剛バルなどのイベントが開かれている。
小学校単位でのまとまりがある。
教育機関(小中学校)が多く、子育て環境が良い

【地域の分析及び課題と考えること】

第3圏域のワークショップで出た意見は、他圏域と比較すると、住民同士の付き合いが希薄な地域が多いが、医療機関や買い物できる場所が多いなど地域の資源が豊富であるというものが多かった。特に金剛地区・金剛東地区と呼ばれるエリアでは、医療機関や買い物ができる場所が充実し、イベントや福祉委員会のサロン等も頻繁に実施されており、第3圏域は、地域資源が豊富であり、課題が少ないという意見が多く出ていた。

もっとも、買い物ができる場所はあるが、坂道が多く、高齢者にとっては徒歩での移動が不便であり、買い物ができない/しにくいエリアもある。また、202号線や南海高野線金剛駅から離れた地域では、医療機関や買い物ができる場所が少なく、さらに移動手段も乏しいことから、通院や買い物等が不便であるという意見が出ていた。

また、第3圏域は、教育機関（小中学校）が多いことで、子育て環境が良く、小学校単位でのまとまりがあるという他圏域では出ていなかった意見が出ていた。

住み慣れた地域で安心して生活していくためには、この圏域がもつ豊富な資源を効果的に活用できるように資源と課題のマッチング（そのための、情報収集と発信）を進めていく必要がある。また、既存の資源を、より高齢者が活用しやすい形に発展させていくことが必要である。

【課題に対しての提案】

課題	資源	提案
住民同士の付き合いが希薄 買い物先が限られる 坂が多い	小学校単位でのまとまり イベントが多い（金剛マルシェ） 福祉委員会が活発	各校区の小学校を活用してマルシェ等の住民同士の交流ができるイベントの実施
【分析】 住民同士の付き合いが希薄であることや買い物先が限られること、坂が多く移動が大変であるといった課題から、住民同士の交流と買い物のニーズが充足できる場を、移動距離が少ない各小学校で設置することが当該課題解消につながると考えて、「各小学校区でのマルシェの実施」を検討する。 マルシェは、既に実施されている福祉委員会のサロンなどと同時開催する、金剛マルシェでの野菜販売のノウハウを活用するなどし、魅力的で人がより集うよう取り組む。		

まとめ

【報告書としての成果と限界点】

今回、富田林市の高齢者が地域で生活を続けていくための課題やその解決方法を探るワークショップを通じて、それぞれの地域の強みや課題を整理することができました。主要な課題を地図上に記載したことで、協議体参加者だけではなく、本報告書を初めて目にする人にもわかりやすく「高齢者が暮らす地域」を伝えるものが作成できました。

同時に、各圏域に共通する課題も明らかとなり、協議体で共有しましたことは、今後の市役所内外の関係者連携においても有意義なものになりました。

加えて、協議体参加者は、介護福祉等の専門家や学識経験者、市民活動の代表者、市内介護・福祉関係者、市役所関係職員などで構成されますことから、各々の業務に関わる者の専門性のある視点から見た市内の課題・資源についての意見でしたので、従来の市民目線でのワークショップとは違った意見などを引き出すことができました。

もっとも、そのような協議体参加者の属性により、地域住民等が把握する地域課題や資源が意見として出ていない側面（限界点）があることも事実です。

【今後の活用方法】

今後、この報告書を地域住民や高齢者の生活支援に関係する団体やグループ等に広くご覧いただき、地域の課題解決や活動団体等の取り組みの維持、強化に向けた話し合いの場において活用され、高齢者の生活支援に関する取り組みの活性化の一助となることを期待します。

また、協議体参加者である専門職と、実際に生活する地域住民との間に存在する地域課題や資源の「認識の違い」と「その違いが生じる要因」の分析を行う際に活用するなど、両者の協働に有用であると考えます。

上述の活用の中で、聞き取った情報等を加筆・修正し、本報告書の内容を充実することで、限界点を補足していきます。

ワークショップ参加機関（富田林市生活支援等サービス体制整備協議体構成機関）

大阪大谷大学　人間社会学部	第1圏域地域包括支援センター	交通政策室
寿美ヶ丘すみれ会代表	第2圏域地域包括支援センター	市役所保険年金課
市認知症キャラバンメイト	第3圏域地域包括支援センター	市役所増進型地域福祉課
大阪府作業療法士会	富田林市社会福祉協議会	市役所政策推進
富田林市人権協議会	市役所金剛地区再生室	市役所人権・市民協働課
市シルバー人材センター	市役所商工観光課	高齢介護課
NPO法人きんきうぇぶ		